

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

独立行政法人国立病院機構呉医療センター

(2) 事業所の所在地

広島県呉市青山町 3 - 1

(3) 業種

医業

(4) 事業所位置図 別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成31(2019)年度を基準年度とし、令和7(2025)年度から令和12(2030)年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

院内全般の一般照明をLEDへ更新することで電気使用量及び温室効果ガスの削減を図る。また、その他建物設備を高効率の機器へ更新する整備計画を随時策定する。
運用面においては、職員の超過勤務時間を削減することで照明・空調等のエネルギー使用量低減を図る。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 31（ 2019 ）年度	令和 6（ 2024 ）年度
二酸化炭素	12,324	14,049

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ）年度	令和 （ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ）年度	令和 （ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 31 (2019) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 12 (2030) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	12,324	2.6	324	12,000
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	12,324	2.6	324	12,000
温室効果ガス みなし排出量		—		12,000
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)、原単位置量(kg等)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標 削減率 (d)	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—		0.0	—	—	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	3%削減	院内全般の一般照明をLEDへ更新（随時）
2			
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

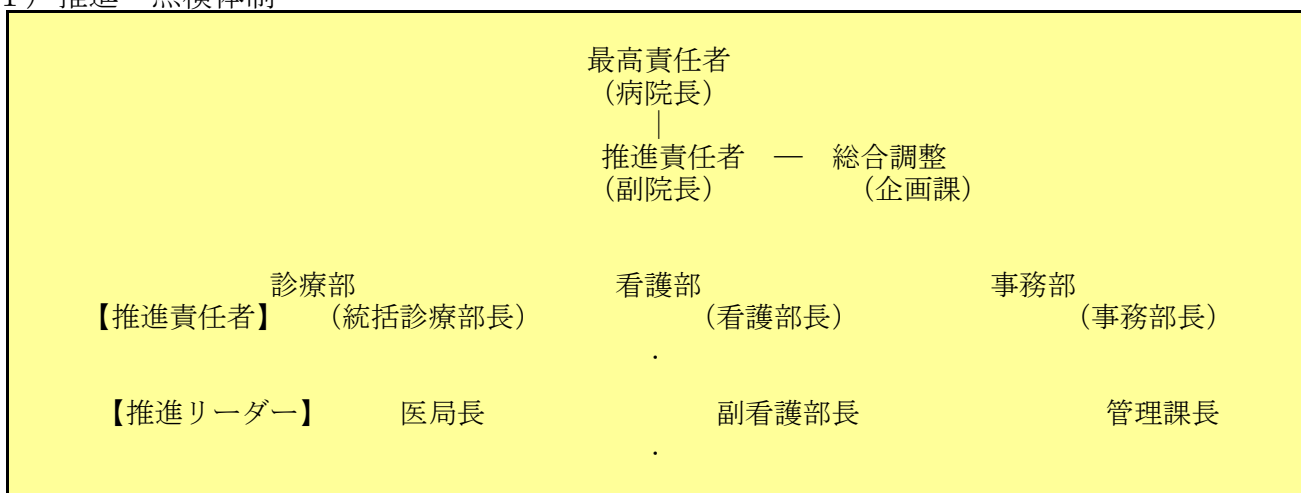
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	市水使用量削減	1%削減	ドレン回収装置により、回収したドレンをボイラーで再利用する。
2	エネルギー使用量削減	1%削減	超過勤務時間の削減
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ①温室効果ガス総排出量の定期的な記録、及び排出量増減の要因分析
- ②一般照明LED化の進捗管理

(3) 計画書等の公表

独立行政法人国立病院機構の発行する環境報告書等により公表する。